

小学校の記念講演にて

2日前の10月29日(日)は、45年前に卒業した母校・浜田市立雲雀ヶ丘小学校の50周年の式典で、記念講演をしました。小学生は全学年そして両親、来賓には浜田市長以下市議県議の皆様の前で、いったい誰を対象に話したのかと悩み、結局小学生低学年を対象にと心を決め「なぜ？が未来をつくる」という題で話を始めました。退屈ではないはずの講演ではなく、小学生を参加させようとあらかじめ学年ごとに質問を投げかけておいて、その答えの発表を受ける形で話を進めました。1年生には「どうしておかあさんはたいせつなの？」といわずもがなの質問をしたり、いきなり難しく3年生には「どうして空は青いの？」と。これは身近な事に興味をもって貰いたかったからです。が、ちょっと難しい質問、でも、何とか答えてくれたので、わかりやすく説明を加えました。ところで、火星は、日中空は赤く、夕焼けは青い(太陽の周囲のみ)って知っていましたか？皆さん。今はインターネットという便利なものがあり、事の真偽は判断できませんが、その答えはネット上にありました。

その後、液体窒素を使って、科学の手品？、これが一番子供達を乗せました。「だれか(壇上で)手伝ってくれる？」と聞くと、みんなが我も我もと一斉に手を挙げ、来賓や親御さんから驚きの笑いが。「みんな液体窒素で、風船を冷やすとどうなるかな？・・・・・・」子供達は耳をふさいで「割れる」「破れる」・・・・、それが割れないんですね、しわくちやの紙のように薄くなって、そして外に投げると、シワシワシワと音を立てながらふくれ、元に戻るのです。破裂もしません。バナナで釘を打つよりも、お花をくしゃくしゃにするよりも、今回の実験でもっとも子供達を引きつけた実験でした。自然は時にこの様な粋な計らいをしてくれます。

後で校長先生とお話しながら、今の子供達の中に、個人主義がはびこり始めていることを感じました。昔と同じように子供らしい好奇心やみずみずしさも感じましたが、唯一、ちょっと僕たちの時と違うなというのは、その点でした。

「我さえ良ければそれで良い、楽しければそれで良い」という所までは子供達はまだ行っていないけれど、この子供達を育てている我々から始まった親の世代は、子供にことさら人の為などとか、人は支え合って生きているなどとは言わ

ない世代だと思います。その点の教育やしつけのほったらかしが、将来は子供自身も不幸にする事にもなりかねない、人の中で豊かに生きることができない、そして、その結果、自分を伸ばすこともできない子供を作っている事に気がつかなくてはいけないなと思いました。そこで、講演の中で、親御さんに向かって、今、大学で学生達を見ていると感じる事として、自分中心で、人と人の間、つまり社会の中で人間は生きているそのルールや認識の教育を、つまり社会性を持つ為の教えやしつけを、将来子供を伸ばすためにもして欲しいとお願いしました。小学校の先生が言ったら説教としか聞かれない事も、大学の先生が言えば聞いて貰えるかなと思いつつながら・・・。

この様な世相は、今の大人の中にも見え隠れしますね。権利ばかり主張して、あるいは権利のみを利用して、給料が貰えるのは、それに見合う社会的役割という「義務」がある事を忘れているおかしな事件が、「働かないで給料だけ貰う」という事件として、最近ようやく社会的に取り上げられ弾劾され始めました。我々公務員も、給料を払っている国民から託されているわけで、仕事で応える義務があります。まもなく、この間違っただ個人主義は、大人の場合、その人の履歴に大きな汚点として記入され、加えて、この様な社会的な弾劾とともに消えてゆき、日本をあるべき姿に戻して行くことでしょう。

皆さんもちょうど、その育てる側の年代ですね。三つ子の魂百までです。小さい時に、社会の一員として迎えられる、ひとに配慮し、助け、助けられ、結果自分も伸びてゆく、豊かな人生を送る子供への基礎条件を、かわいい子供さんにしっかりと身につけさせてあげて欲しいと思います。

学長の特別補佐として

相変わらず忙しい毎日です。今年は学長の分身役として、週に2, 3回は西条キャンパスに呼び出される事が多くなり、会議用に車もエコな、プリウスを3台目として購入しました。引き続き外部資金を中心に、学長室付きの特別補佐として、大学全体の為に働いています。もう大型申請の手直し役は飽きるくらいやらせて貰い、どうも、申請学内ヒヤリングに升島が居ると、その指摘は役に立つ という位までにはなったかなと、そこまでは頑張ってきました。今年は、それ以外にも、広島大学全体、つまり、在校生も職員も、そして、全卒業生も含めた「広大校友会（フェニックスクラブ）」の立ち上げにも幹事として関与しています。来年4月から発足するこの校友会は、終身会費2万円、全

卒業生、したがって、従来からある同窓会の名簿管理も肩代わりしながら、この上で、ミクシーのようなソーシャルネットサービスも運営すべきと言っています。その仕掛け人も僕がやることになるかもしれません。だって、メリットのない校友会なんてだれも入らないでしょう。校友会は中国新聞のチューピークラブと連携して、この中国地方3600店での割引サービスも校友会カードで受けれることになりました。これを可能にしたのは、山田秘書の親友である、今尾道の中国新聞支局長の坂井さんのお陰です。

大学の運営も見ていますと本当にこれで良いのかなと、経営に素人の集団の危うさを感じます。時代を見渡す大きな未来観もなく、短期、長期のビジョンも戦略もなく、ただ2, 3年ごとに動く文科省の言いなりになっていては、右に左に動き回って船酔いし、構成員みんなが疲れる訳です。すべてしっかりした時代観、企画力、戦略力の創造性の必要な仕事です。

プロジェクト研究・他

今年は期せずして、2つの大きなプロジェクトが通りました。合わせて2年間で研究開発費2億円の規模です。

ひとつは、例の「広島市民球場を低コストでドームにする技術開発」で、これは地元企業を中心に、今着々と進んでいます。新しい膜材を使いますので、建築基準法のクリアーが1つの障害でしたが、それも乗り越えました。後は、構造ですが、シンプルにすることで、低コストにし、来年早々には、模型を作り記者発表となると思います。メンバー企業数14社に膨れ、大所帯のプロジェクトですが、どうか楽しみにして下さい。

もう1つは、以前不完全で終わった質量分析器の開発です。これはもうオンゴーイングのプロジェクトですので、あとはひたすら形にするのみ。最近設計をし直し、経験者の意見も聞き、さらに実現性の高いものにして、メンバー企業に製作依頼をかけました。年末までには、形ができると思います。将来のHUMANIX社の主力商品となれば良いのですが。

そういえば、HUMANIX社、順調に推移しています。ナノスプレーがだんだんと皆さんに支持されはじめ、製品もさらに不具合を直し、先日は島津製作所の服部社長が来られましたので、島津用に開発したものをお渡ししました。OEMで出すことになれば良いなと思っています。HUMANIXも増資をすることにしました。このまま順調に育ってくると良いのですが。

質量分析学会

昨年、日本質量分析学会の平岡さんから、質量分析総合討論会を広島でやってくれないかと言われ、当時は会員でもなく、アメリカ質量分析学会ばかりに目を向けていたものが、日本の学会にまた1つ入る羽目になりました。

来年の5月15日から17日、広島国際会議場で行います。前日美術館にてのレセプションからはじまり、初日はアジアセッションを、あの島津の田中さんの協力もあり行います。外国からの招待講演者も4名と、予算が大変な学会となりましたが、どうか、関連の皆様は是非、来てください。お待ちしております。

こうして、何足ものわらじを履き、教室員の津山君、長谷川、山田両女史に支えて貰いながら、今年も目の回る毎日を送っています。今は人生で言えば、花火が沢山あがっているそんな時期かもしれません。まもなく58歳、還暦という言葉は聞きたくもない言葉ですが、人類を皆平等に支配している「時」は、そんな個人的な感傷も何も関係なく、ただ粛々とその時を動かしていくに違いありません。

その時の移ろいの中で、お互い、時に自分を見直し、もっと人生の本質とはと自問自答して、進んで行こうではありませんか。

みなさんのますますの健勝とご多幸をここ広島の研究室から祈っております。

明日から、スイス・ドイツに、広島県や中国経済産業局の人たちと出張して来ます。

平成18年11月6日

升島 努